

平成 26 年 6 月 3 日現在

機関番号：11101

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2010～2013

課題番号：22242024

研究課題名(和文) 中近世北方交易と蝦夷地の内国化に関する研究

研究課題名(英文) The study for northern trade of Middle Ages and early modern times and infiltration of Ezochi

研究代表者

関根 達人 (SEKINE, Tatsuhito)

弘前大学・人文学部・教授

研究者番号：00241505

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 29,800,000円、(間接経費) 8,940,000円

研究成果の概要(和文)：中世・近世の多様な考古資料と文献史料の両方から、津軽海峡・宗谷海峡を越えたヒトとモノの移動の実態を明らかにすることで、歴史上、「蝦夷地」と呼ばれた北海道・サハリン・千島地域へ和人がいつ、いかなる形で進出したかを解明した。その上で、「蝦夷地」が政治的・経済的に内国化されていくプロセスを詳らかにし、そうした和人や日本製品の蝦夷地進出が、アイヌ文化の形成と変容にどのような影響を与えたかを考察を行った。

研究成果の概要(英文)：This study clarified the actual situation of the movement of persons and supplies beyond Tsugaru Strait and Soya Channel based on both variety of archaeological remains and ancient documents. This study elucidated it how and when Japanese went into the Hokkaido, Sakhalin, Chishima area called Ezochi in history. As a result, the process that Ezochi was infiltrated in politically or economically by Japanese became clear. I considered it what kind of influence advance of Japanese and the Japanese products to Ezochi Ezo place had on the formation and transformation of the Ainu culture.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：アイヌ 物質文化 蝦夷地 中世城館 和人 石造物 交易 サハリン

1. 研究開始当初の背景

(1)北方史の主役であるアイヌの人々に関し、平成9年の「アイヌ文化振興法」に続き、平成20年度には国会において「アイヌ民族を先住民とすることを求める決議」が全会一致で採択され、国民一般の間にもアイヌ民族の歴史・文化に対する関心が高まっている。

(2)近年の北方史・アイヌ史は、和人とアイヌとの間で行われた交易を重視するが、「北からの」文化的影響を重視するあまり、「南から」すなわち本州から北に向かった和人や日本製品にはさほど関心が示されていない。

(3)近年のアイヌ研究は、従来のアイヌ史観への反動から、自然と共生し豊かな精神世界を構築したアイヌ民族の姿が強調される余り、和人の蝦夷地進出の実態が見えにくい状況に置かれている。

2. 研究の目的

(1)本研究は、中世・近世の多様な考古資料と文献史料の両方から、海峡を越えたヒトとモノの移動の実態を明らかにすることで、歴史上、「蝦夷地」と呼ばれた北海道・サハリン・千島地域へ和人がいつ、いかなる形で進出していったかを解明する。

(2)「蝦夷地」が政治的・経済的に内国化されていくプロセスを詳らかにし、そうした和人や日本製品の蝦夷地進出が、アイヌ文化の形成と変容にどのような影響を与えたか、具体的な資料の分析に基づき多角的に検討する。

3. 研究の方法

(1)本研究は、考古学、文献史学、文化財科学、形態人類学による共同研究である。

(2)考古学の分野では、北海道を代表する中世城館跡の一つである北斗市矢不來館跡の発掘調査、箱館・江差の近世墓標と「蝦夷地」における近世石造物の悉皆調査、サハリン出土の日本製品の調査により、津軽海峡・宗谷海峡を越えて北に向かったヒトとモノの動きを解明した。

(3)文化財科学の分野では、北海道・サハリン出土の漆器・ガラス玉・金属製品の材質と製作技法の調査により、北方地域に移出された日本製品の実態を明らかにした。

(4)形態人類学の分野では、上之国勝山館跡周辺から出土した古人骨の調査を通して、アイヌと和人との同化やアイヌの食生活の変化について考察した。

(5)さらに、考古学・文化財科学・形質人類学で得られた知見と文書や絵図等の古記録を照合する手法により、中近世北方交易の実態

と「蝦夷地」内国化のプロセスを追求した。

4. 研究成果

(1)矢不來館跡の発掘調査により、館主である下国安東氏は、コシヤマインの戦いを経た15世紀後半の段階でなお、上之国を本拠とする蠣崎氏を上回る勢力を保持していたことが判明し、従来蠣崎氏中心に述べられてきた中世道南の歴史像を大きく塗り替えた。

(2)箱館・江差の墓標調査により、前に行った松前における墓標調査と併せて、蝦夷地への窓口である松前三湊の盛衰が明らかとなった。

(3)蝦夷地の石造物の悉皆調査により、日本海側の西蝦夷地と太平洋側の東蝦夷地とでは、和人の進出時期や進出理由などに大きな違いがあることが判明した。

(4)上之国勝山館跡に隣接する夷王山墳墓群のアイヌ墓から出土した人骨を調べたところ、形態的にも食性上も和人に極めて近いとの結果が得られた。

(5)サハリン島出土の日本製品の調査により、カラフトアイヌは北海道アイヌ同様に漆器を好み、日本製のキセルや刀装具はカラフトアイヌのみならず、サハリン島北部に暮らしていたウィルタやニブフにも受容されていたことが判った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 15件)

関根達人「近世石造物からみた蝦夷地の内国化」『日本考古学』36、日本考古学協会、2013年、59～84頁

20、2013年、99～118頁
関根達人「場所図・古絵図にみる1850年代の樺太(サハリン)島における先住民族と国家 目賀田帯刀筆『北海道歴検図』の検討を中心に」『北海道・東北史研究』8、北海道出版企画センター、2012年、24～56頁

1850-

(

)、

19、2012年、183～242頁

関根達人「江戸時代に樺太で亡くなった人々 - 『白主村墓所并死亡人取調書上』の検討」『弘前大学国史研究』133、弘前大学国史研究会、2012年、15～26頁

関根達人「出土試料からみたアイヌ文化の特色」『新しいアイヌ史の構築 先史編・古代編・中世編』、北海道大学アイヌ・先住民研究センター、2012年、168～181頁

関根達人「北斗市矢不來館跡で発見された中世墓」『北海道考古学』48、北海道考古学会、2012年、4～5頁

中村和之「元・明代の史料にみえるアイヌとアイヌ文化」『新しいアイヌ史の構築 先史編・古代編・中世編』、北海道大学アイヌ・先住民研究センター、2012年、138～145頁

野村祐一・中村和之「南北海道古銭とベトナム銭「開泰元寶」の発見 - 志海苔古銭と湧元古銭 - 」『考古学ジャーナル』626、2012年、25～28頁

北野信彦「中・近世アイヌ史の解明に対する漆器分析の可能性」『新しいアイヌ史の構築 先史編・古代編・中世編』、北海道大学アイヌ・先住民研究センター、2012年、186～194頁

関根達人「石廟の成立と展開」『日本考古学』32、日本考古学協会、2011年、117～143頁

関根達人「石造物と過去帳からみた津軽・松前の飢饉」『北奥文化』32、北奥文化研究会、2011年、7～15頁

菊池勇夫「松前広長『夷酋列像』の歴史認識」『宮城学院女子大学キリスト教文化研究所紀要』45、2011年、41～55頁

菊池勇夫「寛保の松前大津波 被害と記憶」『季刊東北学』28、2011年、127～139頁

中村和之「本邦初出土のベトナム銭「開泰元寶」」『歴史と地理』650、2011年、56～59頁

〔学会発表〕(計 8件)

榎森進「北東アジアの中のアイヌ民族 その歴史と現在の諸課題を中心に」第19回アイヌ民族シンポジウム招待講演、2013年1月25日、札幌市教育文化会館

関根達人・成田正彦「弘前市長勝寺発見の松前徳廣墓について」東北史学会、2012年10月7日、岩手大学

菊池勇夫「松浦武四郎『蝦夷日誌』にみる松前・蝦夷地の沿海社会」『アジア沿海科研』研究集会、2012年4月28日、法政大学

関根達人「平成22・23年度北斗市矢不來館跡の発掘調査成果」北海道考古学会2011年度遺跡調査報告会、2011年12月17日、

北海道大学

関根達人「北斗市矢不來館跡」第32回北海道考古学情報交換会、2011年12月4日、北海道函館市南茅部下公民館

関根達人「サハリン(樺太)島出土の日本製品と白主会所後の確認調査」北方島文化研究会第40回研究会、2011年10月23日、北海道開拓記念館

関根達人「出土茶道具・仏具からみた蝦夷地の内国化」日本考古学協会第77会総会研究発表、2011年5月29日、國學院大學

関根達人「平成22年度北海道北斗市矢不來館跡発掘調査概要」第31回南北海道考古学情報交換会、2010年12月5日、北海道上下ノ国町総合福祉センター

〔図書〕(計6件)

関根達人・榎森進・菊池勇夫・深澤百合子・中村和之・北野信彦ほか『中近世北方交易と蝦夷地の内国化に関する研究 - 平成22年度～25年度科学研究費補助金基盤研究A(課題番号22242024)研究成果報告書』2014年、総頁数182頁

関根達人ほか『函館・江差の近世墓標と石造物 - 平成22年度～25年度科学研究費補助金基盤研究A(課題番号22242024)研究成果報告書』2013年、総頁数100頁

関根達人ほか『北海道渡島半島における戦国城館跡の研究 北斗市矢不來館跡の発掘調査報告』弘前大学人文学部文化財論研究室、2012年、1～10,32～45,48,70～75,111～125,143～145頁

関根達人ほか『松前の墓石から見た近世日本』北海道出版企画センター、2012年、5～36,44～60,118～130,139～164,235～236頁

榎森進『新版・北海道の歴史 上(古代・中世・近世)』北海道新聞社、2011年、159～225頁

菊池勇夫『十八世紀末のアイヌ蜂起 クナシリ・メナシの戦い』サッポロ堂書店、2010、総頁数307頁

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：

番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

関根 達人 (SEKINE Tatsuhito)
弘前大学・人文学部・教授
研究者番号：00241505

(2) 研究分担者

榎森 進 (EMORI Susumu)
東北学院大学・文学部・教授
研究者番号：10145972

菊池 勇夫 (KIKUCHI Isao)
宮城学院女子大学・学芸学部・教授
研究者番号：20186191

中村 和之 (NAKAMURA Kazuyuki)
函館工業高等専門学校・教授
研究者番号：80342434

北野 信彦 (KITANO Nobuhiko)
独立行政法人国立文化財機構東京文化財
研究所・保存修復科学センター伝統技術研
究室・室長
研究者番号：90167370

深澤 百合子 (FUKASAWA Yuriko)
東北大学・国際文化研究科・教授
研究者番号：90316282

(3) 連携研究者

谷川 章雄 (TANIGAWA Akio)
早稲田大学・人間科学学術院・教授
研究者番号：40163620

藤澤 良祐 (FUJISAWA Ryosuke)
愛知学院大学・文学部・教授
研究者番号：10387566

朽木 量 (KITSUKI Ryo)
千葉商科大学・政策情報学部・准教授
研究者番号：10383374

長谷川 成一 (HASEGAWA Seiichi)
弘前大学・人文学部・教授
研究者番号：20013287

奈良 貴史 (NARA Takashi)
新潟医療福祉大学・医療技術学部・教授
研究者番号：30271894